

地方創生関係交付金の効果検証(地方創生拠点整備交付金)

交付対象事業の名称	事業概要	KPI				令和4年度の主な取組とKPIへの影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R4目標	R4結果			
伝統文化を活用した観光コンテンツ造成のための施設整備計画	からくり文化の発信拠点となる施設を整備し、観光振興の場・にぎわい創出の場として活用することにより、交流人口の増加を図るとともに施設を利用した体験型観光メニューの造成や、犬山祭、からくりに関連した商品の開発・販売などにより市内の観光収入の増加を目指す。 事業効果を高めるための取組として、文化史料館本館からの動線に配慮したスロープの整備(効果促進事業)、北駐車場の改修(単独事業)、他の拠点施設における犬山祭関連ミニライブラリースペースの整備(単独事業)を計画しており、犬山城下町全体の活性化を図る予定である。	① 施設を活用した売上金額 (グッズ販売、特産品販売、イベントなど)	千円	1,825	1,452	【からくり文化の情報発信】 オープン3年目の令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のあった令和3年度に比べ来館者数は回復傾向となり、感染対策を継続しつつ館内でのからくり人形実演回数を増やすなど、積極的なからくり文化の情報発信を行ったことによりKPI②の増加につながった。 【地元業者や市民団体等が開発した特産品・グッズ等の紹介・販売】 地元業者や市民団体等から販売手数料を納めてもらい、74品目のグッズを文化史料館南館で販売した。からくり人形の愛好者や犬山祭のファン層から好評を得ており、KPI①の増加につながった。 【新たな観光客層の開拓】 新型コロナウイルス感染症の対策が緩和され、外国人観光客は前年度よりも増加した。小中学校による団体見学も積極的に受け入れた。結果としてKPI③が達成できた。	【からくり文化の情報発信】 新型コロナウイルス感染症の対策が緩和されたため、対面での情報発信を行うとともに、令和2年度に開始したSNSなどの活用による非対面での情報発信を継続する予定である。 【地元業者や市民団体等が開発した特産品・グッズ等の紹介・販売】 現在すでにグッズの品目は充実しているが、売上を伸ばすための試みとして、販売スペースのレイアウト替えなど販売方法の改善に取り組みたい。 【新たな観光客層の開拓】 観光客層に占める若者の割合を増やすために、より親しみやすい展示や解説に努め、SNSを活用したPRを継続する予定である。また、観光ツアーや小中学校による団体見学は積極的に受け入れる方針である。	地方創生に相当程度効果があった
コミュニティ参加促進 交流を通じて定住したくなる地域の拠点整備事業	東地区の地域コミュニティ拠点施設「東ふれあいセンター」について、利用者ニーズ、施設の問題点等を洗い出し、地域の若者を含めたワークショップを重ねてきた検討結果を反映し、地域、住民にとってより魅力的な施設となるよう整備する。	① 東ふれあいセンターの年間来館者数(人)	人	1,557	1,905	【東ふれあいセンターに関する情報発信事業】 当センターの改修工事の完了に併せて、オープニングセレモニー及びオープニングイベントを実施し、広く市民に周知することができた。 【犬山市コミュニティ推進地区助成金事業】 助成金として614,600円を交付し、作品展や交流サロン、門松づくりワークショップなど、センターを活用する事業を実施することができた。 【東ふれあいセンター敷地内ピザ窯整備事業】 ピザ窯を利用した交流会を開催し、施設の新たな利活用を図ることができた。 【東ふれあいセンター敷地内グランドゴルフ練習場整備事業】 改修工事に併せ、敷地内の未利用地約1,000㎡を芝生化し、整備を行った。 上記取り組みによりKPI①②③が達成できた。	【東ふれあいセンターに関する情報発信事業】 引き続きホームページ等により情報発信を行っていく。 【犬山市コミュニティ推進地区助成金事業】 引き続き助成金事業を実施し、地域の交流拠点としての事業を支援していく。 【東ふれあいセンター敷地内ピザ窯整備事業】 引き続き、ピザ窯の活用機会を増やすことで、当該施設の新たな魅力創出を図っていく。 【東ふれあいセンター敷地内グランドゴルフ練習場整備事業】 グランドゴルフを始め、誰もが利用できる芝生ひろばの活用機会を増やしていく。	地方創生に非常に効果的であった
		② 拠点施設(文化史料館・どんでん館)を活用したイベント開催における施設集客数(延べ人数)	人	8,639	7,782			
		③ 施設をルートに入れた観光ツアー一件数	件	40	40			